

## 留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 森土未悠（オーストラリア）

日本へ帰りたくないと思うことができたほど濃く大切な1年になりました。

2023年4月、私は家族に見送られながら一人で飛行機に乗り込みました。留学当初は不安で仕方がなく長いと思っていた1年留学も今ではあっという間に過ぎてしまったと思います。

私は幼稚園の頃から英会話教室に通い、英語検定を受験してきました。それを通して留学を高校生の間にしたいと思うようになり、たくさんの方の応援のおかげで高校2年生の学年で1年留学をすることができました。幸いにも、とても楽しく充実した生活を送ることができ、一人の人間としても成長できたと思います。留学前から支援してくださった方やこの1年間関わってくださった方達にとっても感謝しています。

留学初期を振り返ると私が留学前に描いていた想像通りにはうまくいかずつまづくことが多かったです。特に学校生活やホストファミリーとの関わり方、友達関係に悩みました。主に、パソコンの使い方がよくわからない…ホストファミリーとの関係性が想像していた雰囲気と違う…留学が始まって少し経ったにも関わらず遊ぶ友達がいない…オーストラリアにいるのにも関わらず現地の人と接する機会がない…などです。

まずオーストラリアの学校では小学生から自分のパソコンを持ち、宿題をオンラインで提出します。私は留学前にパソコンを使う機会がなく、WordやExcelの使い方が全く分かりませんでした。周りの子達の見様見真似をしていくうちにたくさんの技術が身に付き、今ではタイピングも早くできるようになりましたが、留学前からパソコンに慣れていればよかったなと思うことが多かったです。

留学前にインターネットでホストファミリーとの接し方、どう関係を築いていくかなどの情報をたくさん調べていきました。ですがそこで描いていた想像とは大きく異なり、初日はホームシックに悩みました。そこでやはりインターネットの情報をすべて鵜呑みにしてはいけないこと、物事を前向きにとらえて行動していくことを学びました。1年間で3つのファミリーにお世話になり、それぞれの家庭の雰囲気や規則、留学生との関わり方が大きく異なることに気が付き、臨機応変に対応していくことの重要性を知ることができました。そして毎日会話することや何事にも感謝を忘れないことを特に心がけて毎日過ごしていました。少しずつ長い会話ができるようになったときの嬉しさが今でも忘れられません。

留学3か月目までの間 ISEC というインターナショナル生用のコースで過ごしていました。勿論そこで友達ができましたが、クラスの中ではみんなが母語で会話をしていて英語力を向上させるためのコースだと思い込んでいた私には少し耐え難い状況でした。しかし、ネイ

ティブの方たちと関わることもなく、「私が思い描いていた留學生活と違う」「ネイティブの友達ができないまま1年過ごすのか」といった葛藤と焦りがありました。なので私は友達を作るため、たくさん英語を話す機会を作るためにとても努力しました。特に初めはネイティブの人たちに話しかけると、「話しかけてもいいのか」「私の英語が通じるのか」と緊張してためらっていました。自分自身の英語にも自信がなかったです。ですが後悔をしてからでは遅いと思い、勇気を出してロッカーが隣の子に話しかけました。それからその子がいるグループの輪に入ることができ、英語を話すことがより楽しくなり自信が付き始めました。ロッカーが隣の子は偶然同学年でした。私は運がよかったと思います。ですがその運をどう生かし、努力をするかで1年という限られた期間が左右されると感じました。葛藤を乗り越えるための勇気を出すことは難しいけれど、留學中に自分を成長させてくれた大きなカギです。それも、私は友達と過ごした思い出がとても濃く印象的です。私は人との出会いに恵まれ、たくさんの友達ができました。私の留學生活を華やかにしてくれたみんなに感謝でいっぱいです。

とてもありがたいことに現地の高校で出会った日本人から憧れられるようになり、これまで全力で頑張ってきてよかったと思った瞬間でした。格好いい背中を見せて私もその子達を遠くから応援したいです。

この留學は私にとって一生忘れられない大きな財産になりました。これは私だけの力でなく、留學前からサポートしてくださった方々や一番近くで応援してくれていた家族、たくさんの友達のおかげです。幸せな環境で笑顔で溢れていた留學の日々に感謝を忘れず、今回経験したこと学んだことを通して日々成長し続けることができるように努力をし続けます。

